

旭洋造船株式会社（山口県下関市）

社員の事情に配慮した育児休業の延長

福利厚生の充実で 社員の多様な 生き方を応援



職種転換を経て現在は生産設計に従事している守田真弓主任
「目標を立てることによって、仕事に対する向上心と達成感が得られました。それによって会社に貢献できていると思うと、日々業務にとてもやりがいを感じています。」

会社の姿勢

良い船の建造は社員の充実した生活から

造船業界の成長のためには、まず造船業が魅力ある職場として認識されることが必要。そのために福利厚生の充実を継続的に図り、社員の家族にも親しめる家族工場見学会のようなアットホームなイベントを開催して、仕事を理解してもらえる機会を設けている。こうした試みは、結果的に女性社員の居心地のよさにつながっており、勤続年数も長くなる傾向にある。

技術職採用の女性は1名。仕事への取り組み意識が高く、将来の管理職候補としても期待している。現在は育児休業中で、予定していた1年の期限を過ぎても保育所に入所が叶わないことから休業期間を延長。優秀な人材なので、会社では復帰を心待ちにしている。



家族工場見学会は、協力会社のご家族や新卒内定者にまで門戸を広げたビッグイベント。社員たちも、仕事とは別の顔を見せて楽しんだ。

社内環境

総合職への職種転換で専門性を深めることも可能

福利厚生の充実を目指して、半日有給休暇やノー残業デーを設定。年間所定労働時間を1992時間（249日）から32時間短縮して1960時間（245日）にし、平成29年度から適用した。社員が家庭や地域生活での多様な生き方を選択できるよう、配慮している。また、2014年に完成した独身寮12部屋のうち、2部屋を女性用として確保。女性の入社希望者にも入居対応できるように備え、平成29年4月には初の入寮者を迎えた。

現在、平成29年4月に育児休業から復帰した女性係長の他に、一般事務職採用ながら総合職に職種転換して生産設計に携わっている女性主任が1名。実務を通してキャリアを積んでいけば、一般事務職から総合職への道が開かれている。能力と適性を見て、男女の区別なく評価していく。



VOICE

宮元 知佳さん
育児休業からの復帰面談のためにお子さんと来社した宮元知佳係長。手前の模型は係長が進水計算を手掛けた自動車運搬船。
「育児休業期間や復帰について、柔軟に対応してもらえ、休業中の不安がなくなりました。復帰後は仕事と家庭を両立できるよう、頑張ります！」

取り組んでいる会社の概要

旭洋造船株式会社

代表者：越智 勝彦（代表取締役社長）

所在地：山口県下関市長府港町8番7号

資本金：6,000万円

事業内容：鋼船の建造及び修繕

従業員数：176名

（平成29年8月時点、子会社含む）